

イヌガンソク *Pentarhizidium orientale* (Hook.) Hayata
コウヤワラビ科 Onocleaceae

1. 利用可能部位：葉軸)

2. 組織形態：

葉軸基部の断面は上に開いた盃型で上面中央は広く大きく凹み、左右は盛り上がって太い一対の稜となる (A)。葉柄の左右上方、上面との境の部分に通気孔条がある (A、B)。葉柄上部では上面中央の凹みは浅くなり、一対の稜はゆるく盛り上がった形となる (D)。

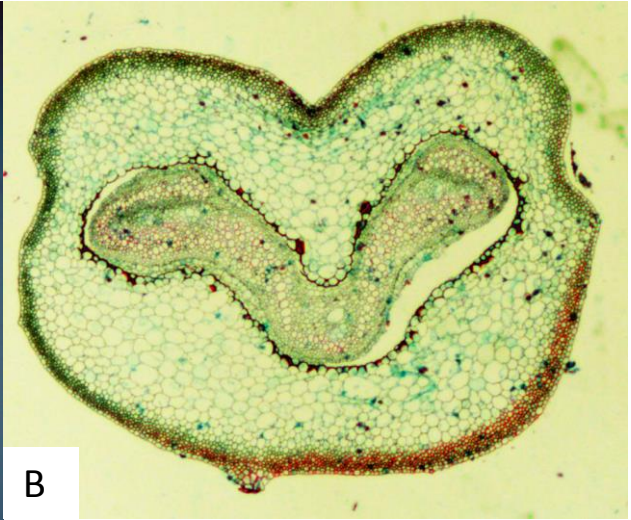
表皮は 1 細胞層で細胞壁が薄い (E)。葉柄の丈夫でも脱落した鱗片の基部が見えることがある (C)。下表皮は全体的に 5~8 細胞層程度と厚いが 3 細胞層程度の薄い部分もある。通気孔条の細胞は大形で薄壁である (D、E)。維管束は葉柄基部では 1 対となっている (C) が上方では背軸側の部分で連続して開いた盃状の 1 本となる (C)。左右上端の木部は上面内側に折れ込んでいる (C、D)。

3. 利用例：知られていない

4. 遺跡出土遺物：知られていない

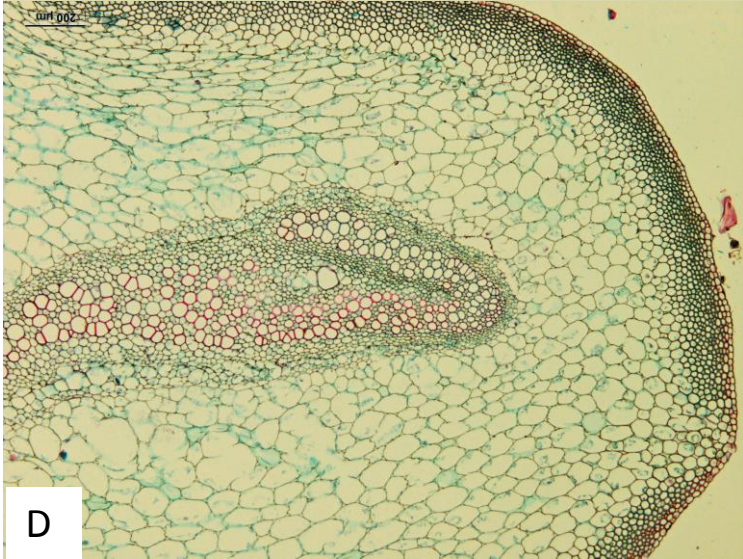
図説明

A:イヌガンソクの葉柄下部の断面。維管束は左右に一対あり、上面中央は大きくへこむ。
B:葉柄上部の断面。上面中央の凹みは浅くなる。維管束は左右に広がった盃状 1 本となる。
C:葉柄上部の断面の拡大。
D、E:葉柄基部の断面の拡大。維管束の木部は上端で大きく上面内側に折れ込んでいる。通気孔条の部分はやや盛り上がり、薄壁で径の大きい細胞が集まって出来ている。下表皮に相当する厚壁で径の小さい細胞は無い。

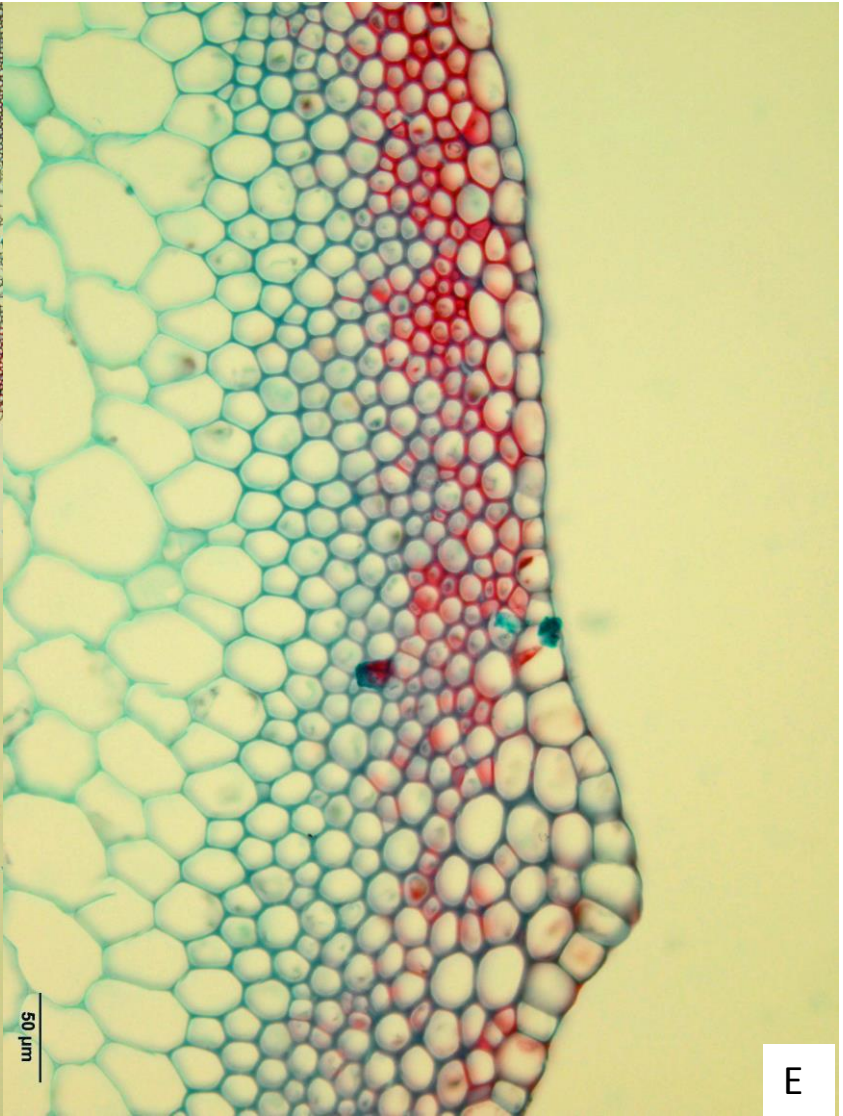




C



D



E